

第三次中期3ヶ年計画(平成29～令和元年度)

基本理念:「私は仲間のために 仲間が私のために」

そして、誇りある集団に。

上記の理念を受け、平成29年度から令和元年度までの3ヶ年の基本方針を『Mission－Vision－Action』と定め、今後、単年度の計画へと具体化していく。

Mission 使命: 私たちに期待されること

Vision 展望: 私たちが目指すもの

Action 行動: 私たちが今、すべきこと

株式会社 中部評価センター

令和元年度事業計画

1. 事業活動

第三者評価事業に関しては、愛知県内の事業所を主たる顧客ととらえつつ、従来の三重県内事業所に加え、新たな市場として静岡県中・西部や長野県南部の事業所にも営業展開していきます。特に、契約単価の安定している社会的養護関係施設がターゲットとなります。

年度の目標を80件とし、その内訳は保育所25件、障害者施設35件、高齢者施設5件、社会的養護施設15件とします。

既存顧客のリピート率を高めるとともに、新規顧客の開拓を最重点に行っていきます。

売上目標:16,325千円

外部評価事業に関しては、既に令和元年度の意向調査(事業所が評価機関を指定する)が終了しており、愛知県におきましては194件の受注が確定しております。

また、特定非営利活動法人中部社会福祉第三者評価センターから事業移行しました岐阜県内の外部評価として、既に 64 件の成約が整っております。

愛知、岐阜両県において 250 件を超える外部評価を実施することとなりますが、一つひとつの評価を丁寧に実施し、顧客からの信頼と満足度を高め、顧客拡大を図っていきます。

売上目標:18,427 千円

情報公表事業は、昨年度同様名古屋市の入札公募を辞退したため、今年度も愛知県の実施となります。

令和元年度(8～9月)に調査員の養成研修が組まれており、当社所属で10名を超える新調査員が誕生する予定です。

愛知県については「割当て方式」が取られているために確定的な数字は予測困難ですが、前年比 20%増の 100 件を予算化いたしました。

売上目標:3,000 千円

派遣審査事業は、年間 10 件(前年比 2 件増)の受注を目指します。

今年度に更新時期を迎える 7 事業者を確実に受注し、加えて新規受注 3 件を目指します。

売上目標:3,700 千円

職業紹介審査事業は、更新審査の該当事業者が 2 件ですが、これまでの経緯から更新を希望されない事業者が出てくる可能性があります。

前年度、前々年度の反省を活かし、早めの対応によって更新審査の受注を確実にしていきます。控えめな数字ではありますが、年間 2 件の受注を目指します。

売上目標:750 千円

その他公的評価事業は、名古屋市と豊田市の指導委託事業が本格化してまいりましたので、新たな指導員の養成・育成に力を注ぎ、「指導・指定センター」への積極的な受注活動を展開していきます。

「愛知県・介護事業所人材育成優良事業所認定審査」事業と「名古屋市・生活保護受給者の施設における適切なサービス調査」事業に関しては、これまで通りの安定した事業展開が予想されます。

これらを総じて、前年度比 20%増の併せて 100 件の受注を目指します。

売上目標:4,500 千円

以上の結果、令和元年度の売り上げ目標は 46,702 千円(前年度比 20.3%増)となります。

2. 評価員等の能力開発

評価の質を問う場合に、評価調査者の資質を無視することはできません。

その観点から、前期に引き続いて評価員等を3つの部門(保育部門、障害・審査部門、高齢部門)に分け、それぞれの部門ごとに専門性に着目した研修を実施していきます。

基本的には、それぞれの部門に対して毎月1回の研修日を設定し、専門性を有する3名の担当取締役が研修計画を策定し、それに沿った研修を実施していきます。

研修会により多くの評価員等の参加を募るため、各人の勤務時間に配慮して研修の開催時間帯を午後 7 時から 2 時間程度とし、タイムリーな研修内容を用意していきます。

また、機関合同研修として年間 3 回(8 月、12 月、5 月)の基本的な研修を実施する予定です。

3. 経費の削減

引き続き経費の圧縮に努めます。

ただし、評価員等の能力開発や社員相互の懇親を図る取り組みには、先行投資の意味合いもあって相応の経費の支出を認めていきます。

支出の合計は、前年比 3.9%増の 43,592 千円を予算化しております。

4. 管理、事務体制の整備

監査役 2 名体制(現行 1 名)、事務局 5 名体制(従来 7 名)へと変更します。

以上